かしの木

●第 22 号●

社会福祉法人
せたがや樫の木会
機関誌第 22 号
2018.2 月発行

平成三十年に向けて

理事長　岩井　雄一

平成三十年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、「社会福祉法人の公益性・非営利性を確保する観点から制度の見直し、国民に対する説明責任を果たし地域社会に貢献する法人の在り方を徹底する。」ため、社会福祉法人の経営組織についても見直しをすることになりました。理事会を業務執行に関する意思決定機関として位置づけ、評議員会は、これまで任意設置の諮問機関であったものから法人運営の基本ルール・体制の決定等を行う必置の議決機関となりました。また、評議員は理事との兼務はできなくなり、資格は社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有するものとされました。これらを踏まえたうえで東京都や世田谷区の指導を受けつつ、現在の経営組織を作ってまいりました。結果として、家族の皆様が直接法人に意見を出す機会が減少したという指摘をいただきました。各事業所を通して意見をお聞きしていますが、さらに直接話し合う機会を設けるということで、協議会（仮称）を立ち上げることにしました。アンケートでいただいた様々なご意見も参考にしつつ進めていきたいと考えます。協議会は地域の関係者も含めたもの（地域協議会）を立ち上げたいと考えています。各家族会を通してご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

さて、今回は、事業所の取り組みを紹介したいと思います。平成二十九年度の事業に「世田谷区障害者施設受注拡大・工賃推進事業」があり、本法人から上町工房と喜多見夢工房が申し込みをし、指定を受け事業を進めております。B型の事業所においては、工賃アップはそれぞれ目標に掲げこれまでも各事業所が努力をしてきたところです。しかし、利用者が増えれば一人当たりの工賃は減ることとなり維持向上させていくのは大変です。推進事業においては、予算をつけてもらい専門家の指導や経営についてのコンサルティング、必要な物品を購入することができます。喜多見夢工房においては、パティシエの方から製菓について、経営コンサルタントから販売促進の指導を受けています。より良いものをより多く作成し、工賃アップを図っていく予定です。また、上町工房においては、ドライ野菜やジャム作りの生産を効率的に行うための備品を購入しています。その過程では、世田谷在来の大蔵大根を作っている都立園芸高校との連携による切り干し大根づくりも好評のうちに進めています。また、デザイナーによる各自主生産品のパッケージのデザインも工夫しました。これらのノウハウを他の事業所にも広げ、法人全体として工賃アップに取り組んでいきたいと思います。

企業とのつながり

平成二十九年十二月三日「第三十七回区民ふれあいフェスタ」にて世田谷区障害者雇用促進協議会感謝状贈呈式が行われ、三菱東京ＵＦＪ銀行様が障害者施設の授産活動に寄与された企業として区長より感謝状を授与されました。三菱東京ＵＦＪ銀行様は新人職員研修に福祉施設実習を取り入れたり、熊本の復興支援にご尽力されたりと、会社全体で社会貢献活動に力を入れていらっしゃいます。

この度は下馬福祉工房等に自主生産品の販売の機会を提供してくださっている活動が認められ、感謝状の贈呈となりました。社員の皆様、とりわけ販売ご担当の方々には本当に多くのご配慮、ご協力、ご指導をいただき心より感謝申し上げます。

小さな関わりを積み重ねて～
共生社会の実現に向けて

大原福祉作業所所長　伊能　亮

平成二十二年に世田谷区からご紹介をいただき、下馬福祉工房のクッキーを二か月に一回、お昼の時間にオフィスのラウンジにて販売させていただくようになってから八年になります。用賀福祉作業所でもステンシル製品などを一回、大原福祉作業所では平成二十八年から自家焙煎珈琲の販売をさせていただくなどせたがや樫の木会としても大変お世話になっており、今回の受賞は本当に嬉しく、改めて感謝の思いが溢れてきます。

下馬福祉工房が販売を開始した当初、企業販売は未知の世界でした。オフィスのムードを楽しみながらも施設とは全く違う緊張感があり、施設ではＯＫでもこの場ではＮＧなことも当然ありながら、社会で「福祉はわがまま」と言われないように、社会のルールを守ること、その場の規則を守ることの大事さを職員も学ばせていただきました。

利用者の方も何回も販売に行く間に少しずつ慣れてきて、それぞれの持ち味や自分らしさを発揮するようになり、それを受けて返してくださる社員さんもだんだんと増えてきました。そのうちに利用者の方々から「私ね、三菱東京ＵＦＪ銀行のＡさんと友だちなんだ」「Ｂさん優しくて好きなんだよね」という声が聞かれたり、社員さんから「今日はＣさん来てないんですね」と名前を覚えてもらったりという和やかな関係が現れてきました。販売での社員さんとの関わりを通して、自分はこれでいいんだと感じられる場にもなっているのでしょう。

大原福祉作業所では利用者の方と職員一名ずつで販売に参加させていただいています。珈琲の試飲を唐突に配ってしまうこともありますが、優しく「ありがとう」と言ってくださる社員さん、コーヒーの説明を熱心に聞いてくださる社員さん、利用者の方の持ち味を温かく受け止めてくださり、本当にありがたいです。

販売がお昼時なので販売後に外食をしてから施設に戻ります。それも利用者の皆さんの大きな楽しみの一つです。近くのお店で何を食べようかと相談して、カレー、中華、回転寿司、てんぷらそばと期待は広がっていきます。そして、販売の仕事を終わらせてから食べる外食は、余暇活動での外食とは一味違う社会人としての充実感とプライドが感じられます。

社員の皆さまを始め、多くの地域の方々と利用者お一人おひとりとの出会いを通して「みんなちがってみんないい」と障害理解を進めていただく機会を大切にしたいと思います。こうした機会により、他の企業様や、団体様、地域の方々、学校などとの「おたがいさま」と言いあえる小さな関わりを積み重ねることが、共生社会の実現につながるのだと感じています。

作品名
「カワセミ」

心豊かに

下馬福祉工房施設長　川名　あき

数十名から時には百名近くの社員の方々がくつろいでいらっしゃるオフィスのラウンジに、下馬福祉工房のお二人は、意気揚々と入っていきます。これも長年、販売体験を積み重ねさせていただいたからこそ、しっかりと「いらっいゃいませ」「ありがとうございます」の気持ちをお伝えし、お買い上げいただいたクッキーにパンフレットを添えて袋に入れ、代金のやり取りもしてみたいという方は、お代をいただいて、職員がアシストしながらお釣りをお渡しします。

社員の皆様はというと、まず、少々お待たせすることをご承知くださっています。限られた休み時間を有効に使おうとお急ぎの方もおられますが、何度か購入されるうちに、ある程度の心の余裕をもって訪れてくださっているように感じます。次に、丁寧に商品をお渡しする利用者の方に向かって、お客様の方から「ありがとう」と言って微笑んでくださることが多々あります。利用者のがんばりを認めてくださる心温まる瞬間です。

そして、ゆっくりと繰り出されるその人ならではの「こちらこそありがとう」の表現までお付き合いいただいた時には、お互いに通じ合えたという何とも言えない和やかな空気が生まれます。

職員は、その様子を少しドキドキしながら見守り、お客様が戸惑っていらっしゃる時には通訳を、フレンドリーな時間を楽しもうとされている時には満面の笑みで後押しします。ここに、社会の常識から大きく逸脱しないように販売活動を行うことと、利用者の方お一人おひとりを知っていただくためにお時間をいただくこととの微妙な葛藤があり、職員も毎回試行錯誤している次第です。

知的に障害のある方と関わるというのは、じっくりと相手に気持ちを傾けて、喜怒哀楽の感情を共にしたり、お互いの間に流れる何かを感じ合ったりと目に見えないことばかり、でもそれが今の社会に最も欠けていて本当は最も大切なことなのではないでしょうか。このような貴重な機会をいただいている三菱東京ＵＦＪ銀行様に心から感謝申し上げますとともに、今後も関わる人たちの心の豊かさを引き出せるような活動を続けていけたらと思っております。

平成 29 年度　事業所祭り

★わくわく祖師谷

砧地域支えあいフェスタ 2018　わくわくまつり

平成 30 年 3 月 3 日（土）10:30～14:30

場所：祖師谷ふれあいセンター

★下馬福祉工房

おたがいさまフェスタ 2018

平成 30 年 3 月 11 日（日）10:30～15:00

場所：世田谷ボランティアセンター

リーフレットによる寄付金報告

（平成 29 年 3 月～12 月）

下記の方々から貴重なご寄付をいただきました。
深く感謝申し上げます。

青柳 和馬 様、東 宏子 様、阿部 春子 様、安齋 俊彰 様、飯田 光代 様、池田 瑞枝 様、
石原 博之 様、伊藤 照美 様、伊藤 裕子 様、伊能 亮 様、岩田 久子 様、岩永 隆男 様、
上原 明子 様、上原 富士夫 様、宇田川 英明 様、江川 庸子 様、大塚 直美 様、大場 弘 様、
大橋 恵子 様、岡本 勝一 様、小野 克己 様、尾身 恭子 様、影山 淑子 様、金子 由美子 様、
金本 英美 様、鎌田 千恵子 様、嘉陽田 栄作 様、川口 和子 様、川口 美代子 様、
雁田 泰田郎 様、北島 竜芳 様、喜多見夢工房 保護者会 様、清本 佳子 様、日下 和久 様、
國井 千代 様、久保田 譲 様、河野 高昌 様、琴寄 正彦 様、小橋 夏海 様、紺野 ひろ子 様、
坂神 多恵子 様、笹野 久美子 様、佐藤 和貴 様、佐藤 勝 様、島田 菜穂子 様、
下馬福祉工房 下馬会 様、庄司 恵美 様、新庄 瑛子 様、新保 秀則 様、杉浦 智子 様、
杉浦 美扶子 様、鈴木 淳 様、鈴木 紀子 様、青海 政左子 様、瀬戸 良教 様、高木 恵子 様、
高橋 貴子 様、田中 郁子 様、田中 省一 様、田村 孝恵 様、千葉 亮太 様、千原 直樹 様、
角田 隆利 様、津村 匡洋 様、鶴﨑 美喜代 様、中尾 壮一 様、中田 みどり 様、中根 幸子 様、
中原 容 様、中谷 慶子 様、新居 悦子 様、二藤 ミサ子 様、野沢 キヨ 様、林 喜美子 様、
肥田 克洋 様、平野 紀雄 様、福田 彊 様、船川 久子 様、堀田 和子 様、松尾 敏江 様、
松澤 千恵 様、松戸 美津子 様、松村 恵子 様、松本 謙介 様、松山 美登里 様、
三浦 なみえ 様、宮﨑 忠 様、安田 生 様、山際 アイ 様、横田 明生 様、吉田 愛子 様、
吉田 裕子 様、和田 恵 様、渡部 伸 様、
他匿名希望 54 名様

五十音順

合計　１４８名様

総額　1,２８６,９５６円

皆様の暖かいご寄付、ご支援により心より感謝いたします。
頂いた寄付金につきましては、今後の法人運営に役立ててまいります。

社会福祉法人せたがや樫の木会
理事長　岩井　雄一

作品名
「海のたのしい仲間たち」

職員人事のお知らせ

新規採用

上町工房
支援員　永井　裕規
（八月一日付）

千歳台福祉園
支援員　青木　聡美
（十一月一日付）

大原福祉作業所
支援員　神辺　儀憲
（十二月一日付）

作品名
「大好きな人たち」

編集後記

今回は企業・地域とのつながりと題し3施設の企業や駅での販売の様子をお伝えしました。

こうした空間・時間が増えることで利用者のみなさんの地域での暮らしやすさにもつながると感じます。また、「二十歳を迎えて」では各所で成人を迎えた方お一人おひとりの持ち味が発揮されていてステキです。やさしさ、迫力、いろいろ感じてみてください。

広報委員会委員長　伊能　亮

作品名　「風」

世田谷区手をつなぐ親の会

Inclusion Setagaya

障害があっても自信をもって生活ができるような社会を作りたいという願いをもって、活動をしています。研修会や見学会、HP、権利擁護、「セータとガーヤの気持ち伝え隊」のキャラバン活動、体育大学との運動教室など、いろいろな取り組みをしていますので、興味のある方は、ぜひ HP をご覧ください。

http://oyanokai-setagaya.com

ご相談があれば、東京都育成会権利擁護支援　センター　世田谷支部
受付専用電話　090 -3136 -0067 でお受けしています。

〒156 -0051 世田谷区宮坂 2-26 -17 ソーワ豪徳寺マンション 306
TEL ： 03 -3706 -0067　FAX ： 03 -3706 -0246

かしの木 21号作成時には、喜多見夢工房の方から沢山の作品を提供していただきました。その中から今号は、4 点の作品を掲載させていただきました。ありがとうございました。

編集発行　社会福祉法人せたがや樫の木会

〒１５５－００３３
東京都世田谷区代田１－２９－５
TEL　０３－５４８１－１０１０
FAX　０３－５７８７－４０５１
E-mail　setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp
URL　http://kashinokikai.net